

風評被害払拭のため、大洗産ホッキ貝を使用した 新商品「一念発起」シリーズの開発支援

支援の ポイント

- ① 地域資源を活用した経営革新計画の作成支援と実行支援
- ② 支援企業の経営革新支援からまちぐるみの風評被害対策へ展開
- ③ アドバイザーの確固たる信念と商工会の地元取りまとめで成果創出
- ④ 農商工連携計画へのフォロー支援と「一念発起」ブランドの更なる浸透

支援の経緯

支援企業は、茨城県東茨城郡大洗町で企業向け日替り弁当を主力に製造販売する業者である。企業向け日替り弁当としては、近隣で最も古く、水戸市を中心に商圏は拡大していた。また、一般消費者をターゲットとした小売店である官庁売店・駅売店・空港・ゴルフ場・宿泊施設等に弁当を卸している。

3年前に、現在ネットワークアドバイザーである初鹿野浩明（はつかのひろあき）氏からアドバイスを受け、大洗町のホッキ貝が地域資源の認定を受けたことから将来このホッキ貝を使った商品開発のために「一念発起」という商標登録を薦められ、それを登録して地元有志とのホッキ貝加工に関する勉強会を開催していた。

平成22年からは大洗町漁協とホッキ貝加工の事業化に向けて話し合いを持ったが、一進一退の状況が続いていた。そこに東日本大震災が発生し、大洗町の漁業が壊滅的なダメージを受け、更に風評被害も相まって支援企業も大きな被害を受けた。代表者は、この大洗町の風評被害を跳ね返すには、町全体の活性化に繋がるようなホッキ貝加工品「一念発起」ブランドを立ち上げる時だと考え、その窓口として大洗町商工会の指導課長である那須誠氏へ相談したのであった。

支援のプロセス

代表者から相談を受けた那須指導課長は、代表者の想いを受けてホッキ貝を原料とした新商品開発を中心とした経営革新計画の認定と、風評被害払拭のため支援企業だけでなく、近隣水産加工業者も巻き込んだホッキ貝加工品の販路拡大を支援テーマとして、支援企業と以前から関わりのある初鹿野アドバイザーに支援をお願いすることとした。

既に支援企業によって3種類のホッキ貝加工品の商品開発が進められていたが、初鹿野アドバイザーはこの3商品のブラッシュアップ及び新商品開発をテーマとした経営革新計画作成支援に着手した。

3商品のブラッシュアップは、茨城産業大県創造基金助成事業の活用によるパッケージデザインの開発、茨城工業技術センターによる加工品の製造指導・賞味期限の設定指導などによって進められ「一念発起」シリーズの第一弾として完成した。

当シリーズの発売発表には茨城県知事、大洗町役場等の協力も得られ、更に報道関係も巻き込んでメディアに大きく取り上げられた。



左から、初鹿野アドバイザー、代表者、那須指導員

3商品の発売の他に、経営革新計画では支援企業の登録商標「一念発起」を使用し、茨城県が特許を有する乳酸菌を使用したホッキ貝入りキムチの開発を計画することとした。「一念発起」シリーズとしてブランド化していくことにより、原材料の「大洗独自の名産ホッキ貝」自体も大洗町の観光資源にすることを柱にしている。

経営革新計画認定とともに支援企業が力を入れているのは「大洗町水産加工品の風評被害払拭」である。風評被害を単一企業で乗り越えることは難しい。一つのテーマを設定して街ぐるみで推進することによって風評被害に対抗できるという初鹿野アドバイザーのアドバイスを参考に、支援企業の保有する登録商標「一念発起」を大洗町内の加工業者に無償供与すると町に提案した。代表者は「どんどんこの商標を使用していただいて大洗のホッキ貝を使った商品で町全体を回復していただきたい」と語っている。町全体でホッキ貝による活性化を図ることが、結果として支援企業の商品拡販にも繋がることとなるのである。

また、那須指導課長が支援企業と大洗漁協や茨城県、町役場、関係機関とのパイプ役となったことで原料の供給やメディアへのPRなどがスムーズに行われたことは大きな収穫であった。このような取り組みが奏功して「一念発起」シリーズ3品は、販売当初から月間100万円以上の売上を確保できている。他の事業者もホッキ貝を使った商品開発に取り組むようになってきており、ホッキ貝を使った街おこしの実現が高まってきている。

フォローアップ活動

支援企業の3商品の売上が好調なことを受け、大洗町商工会は町役場と共催で「ホッキまつり」を6月に開催した。支援企業は勿論のこと地元加工業者などがホッキ貝加工品を持ち寄ったが、開店前に売り切れる店が出るなど、大きな盛り上がりを見せることができた。支援企業もまつり開催中に欠品状態となり、商品を数回持ち込むなど売上効果を得ることができた。10月には第2回ホッキまつりを開催する予定であり、支援企業も参画する予定である。

支援企業の経営革新計画は6月に認定されたが、今後は更なる販路拡大を図るため、茨城県商工会連合会の協力を得ながら農商工連携を推進している。すでに農商工連携計画についても申請を終えており、認定を待っている状況である。支援企業を中心に町全体でホッキ貝プロジェクトを広めていくことで、町全体の集客率向上を見据えている。



ホッキまつりのチラシ

OJTについて

初鹿野アドバイザーのOJT支援は、茨城県商工会連合会が作成したOJT進捗管理ツールを利用して、OJT依頼書に基づいて行われている。

今回は那須経営指導課長が経営革新計画作成に精通していたことから、OJTテーマを絞ることとした。具体的には「ホッキ貝を如何に他の食材と組み合わせる食品を作り出すか」といった新規性の発見力、「商品を開発するにあたっての流通上の課題の見極め方」といった点について焦点を絞った指導が行われた。

那須指導課長曰く「初鹿野アドバイザーは思いつきで仕事はしない。課題を冷静に見極めて計画性を持った考え方は素晴らしい」とのことであった。

OJT修了時には、初鹿野アドバイザーから那須経営指導課長に対し内容について感想を伝えると共に修了報告書を手渡している。

<支援企業が開発した「一念発起」シリーズ第一弾>



ホッキ貝弁当



ホッキ貝カレー



ホッキ貝ご飯の素(完成品)